

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100140		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム フロール		
所在地	栃木県矢板市鹿島町989-2		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成31年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームフロールは、矢板市の中心に位置し、近くに小学校・児童クラブ・市役所等があり、駅からも徒歩圏内で外出や地域交流に恵まれた環境となっています。認知症があっても住み慣れた地域との関りの継続と残存能力の維持が出来るように、そして毎日笑顔で過ごしていただけるよう支援に努めております。また、地域密着型サービス事業所として、小規模多機能型居宅介護施設たちばなの連携を密にして、利用者の安心・安全に努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市の中心部の昔からの家並みの一角にあり、近くに小学校、児童クラブ、市役所があり、車で5分位で行ける位置にスーパー、飲食店、総合病院、道の駅、桜の名所の公園等がある。開設以来、法人で大切にしている理念「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」を受け継いで事業所の理念としている。職員は利用者の支援にあたり理念に沿って利用者に寄り添い、一人ひとりのペースを大切に、家庭的で楽しい生活をしてもらいたいと心掛けている。「できることはしてもらう」という方針で、できる利用者には食事の準備、食器やテーブル拭き、モップかけ、洗濯物たたみ、野菜の収穫等たくさんの仕事を担ってもらっている。家族や親戚、友人、ボランティアの来訪が多く、事業所の夏祭りには児童クラブの子どもや近所の人も参加するなど、地域との交流のある事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」一人一人のその人らしさを大切に生活支援に努めます。法人の理念に基づき職員1人1人が共有に努め実践につなげている。	「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」は法人の理念であり開設時より事業所の理念にもなっている。研修や定例会議、毎日の申し送りの機会に理念を確認し、職員の理念の共有と、それを支援にいかすことができるよう努めている。利用者一人ひとりのペースににあわせ、家庭的な生活を目指し個別支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園児、ボランティアに來所して頂き交流が図られている。秋にはリンゴ狩りに出かける機会があり地域とのつきあいが実践されている。	年1回の幼稚園児との交流、中学生の職場体験の受け入れ、踊りや歌、工作、手品、ハーモニカや大正琴の演奏、アフリカンダンス等のボランティアが來所している。事業所の夏祭りには児童クラブの子どもたちや地域の人も参加し、散歩の時には近所の人とあいさつを交わして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアを受け入れたり、中学生や近所の方の見学を受け入れ、実際に認知症の方に接して頂くようにしたり、施設の取り組みを話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、市職員、包括、地域代表の方、入居者家族様から意見を頂き、サービス向上に努めている。	市職員、地域包括職員、自治会長、民生委員、利用者家族代表が参加して2ヶ月に1回開かれ、事業所の現況報告、情報交換等が行われている。今年度から身体拘束等適正化の指針に基づき対策を検討する委員会も同時に開催し、事業所での状況を報告している。会議の参加者に地域のゴミ拾い、植木剪定、草取りのボランティアをしている人がいて、事業所も一緒に参加し地域貢献したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で情報交換を行い、協力を頂いている。	事業所が市役所に近いので直接窓口に出掛けて介護保険等について相談しており、避難訓練には市職員が立ち合っている。認知症について市の窓口で相談に來た家族を紹介してくれたこともある。市が事務局になっているグループホーム交流会に参加し、参加事業所が交代で議題を決め学習会や事業所の見学会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も夜間のみとしている。	今年度義務づけられた身体拘束等の適正化のための指針を策定した。身体拘束についての研修を行い、接遇の研修の中でも取り上げ身体拘束をしない支援に努めている。拘束をせずに危険を回避するために、気づきノートで職員が情報を共有し、目配り見守りで対応している。夜間の転倒防止には超低床ベッドとマットを使用し、居室の音にも注意を向け拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について研修会を行い、学ぶ機会を設けている。入居者様の気持ちを受け入れ職員間で相談しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度についての研修会に参加し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が対応し十分な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、家族様から意見等を聞く場を設けている。	家族からの要望は面会の時に直接聞き取ることが多い。「できることはさせて下さい」との要望があり、食器拭きやモップかけ、テーブル拭き、洗濯物たたみ等多様な仕事に利用者が参加している。利用者の隣に座ってゆっくり話すことで食べたい物、行きたい場所など要望を聞き取り、献立や行事外出、外食で実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議等で意見や提案を聞く機会があり、それを活かすよう努めている。	定例会議で業務見直しや勤務の見直し、行事の道具等について話し合いをしている。直接施設長や管理者に相談することもある。昨年末、職員の発案で、家族には内緒で利用者の手書きの年賀状を作成し、届いた時に家族に大変喜んでもらった。	定例会議がしばらく開かれていないようなので、職員の意志統一のため、要望を共有するため、利用者の支援を充実させるためにも開催できるよう努力して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を配慮しながら、研修等を行いやりがいを感ぜられる環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や合同研修を通して、学ぶ機会を設けている。資格習得への協力体制もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市グループホーム交流会が開催され参加して、同業者との交流、情報交換を行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集に努め、出来る限り個々の要望や不安な事に耳を傾け、安心して過ごせして頂けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同居されていた家族様その他、別居の家族様からも可能な限り、話を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の状況を把握し、サービス担当者会議の中で必要としている支援を見つけ出し、必要としている支援を行なえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活させて頂くという姿勢を大切に、家族のような存在になれる様接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を取り家族様とのコミュニケーションが多くなるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や知人がいつでも面会に来られるように支援している。家族様の理解を得ている方には、知人との外出等行えるように支援している。	市内在住の家族、親戚、友人の面会が多く、家族の理解を得て友人と外出する利用者もいる。家族との墓参りや外食、誕生日に温泉で一泊、入所前に通っていた床屋に出掛ける等、馴染みの関係が途切れないよう家族と共に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人などが近くの席になるように配慮している。レクでは、他の方とも話ができるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係性は大切にしているが、退居された方の殆どが特養入居されていて相談される機会がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や仕草、表情で意向の把握に努めている。家族様の希望も聞き、話し合っている。	職員は一人ひとりの思いの把握に努めている。「腰が痛いので病院に連れて行って」「シップが欲しい」「肌着の替えが欲しい」と意思表示をする利用者が多いが、言葉で伝えられない利用者からも、動作や表情から「トイレに行きたい」「うれしい」「美味しい」という意志を感じとれるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様から生活歴を伺ったり、担当だったケアマネージャーからの情報も参考に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状況を把握するよう努めている。経過記録、申し送りノート、日誌を活用して共有している。毎日のバイタル測定、排泄状況も確認し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や申し送り、カンファレンス等を行い、課題や検討事項を話し合っている。それぞれの意見等を反映させ介護計画を作成している。	計画作成担当者が利用者、家族から聞き取ったアセスメントや要望を参考に計画を立て、家族の了解を得て支援を実施している。利用者それぞれに担当の職員がつき、日常生活の中で気づいたことを記録して定例会議で検討している。初めは3ヶ月目に、後は6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。定例会議や申し送りの時の話し合いで計画の変更が必要となった時は、サービス担当者会議を開き検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施記録と共に日々の様子や変化を記録し、申し送りにて情報の共有をしている。本人様の言葉や思いをありのままに記載し、その後のプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節に応じた外出行事を行い支援している。年末年始の外出、外泊なども含め柔軟な対応も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れたり、地域の方々との交流で楽しめるよう支援している。行きつけの散髪屋を利用し、知人などに会い楽しまれている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に本人様の様子状態を説明し、適切な受診が受けられるよう支援している。必要に応じて直接かかりつけ医に連絡して指示を受けている。	ほとんどの利用者が、家族の付き添いでかかりつけ医を受診している。受診の際はバイタルチェック表を印刷し家族に渡している。受診結果は家族から日勤の職員に伝えられ、薬等を両ユニット兼務の看護師が管理している。歯科医は、隣接する歯科医院を受診している。	病院の受診を負担に感じている家族もいる。事業所は受診が利用者の負担になった時には、訪問診療・訪問看護等の利用を検討していきたいという意向がある。今後、状況を見ながら検討を進めていくよう期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週2日勤務して日頃の健康管理に努めている。介護職員は、様子観察を行い気づきや変化を報告し、相談している。看護師は、受診の必要があると判断した際は、管理者に報告して家族様に連絡してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前には病院と情報交換したり、管理者と計画担当で本人様に面会している。必要に応じて看護師が同行することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合を想定し、話し合いをしていきたい。寝たきりになった場合には、他の施設の紹介もしていきたい。	これまで家族から、看取りをお願いしたいとの希望はなく事業所で看取った例もないが、看取りやターミナルケアに関して、定例会議後の学習会で取り上げたり、他の事業所の勉強会に参加するなど、意識して学ぶ機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時に備え、全職員が救命救急講習を受け、万全の体制を取っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間想定避難訓練を実施している。地域の方にも参加を呼びかけている。	年2回の避難訓練は、両ユニットに加え、併設の小規模多機能型居宅介護事業所の職員、近隣に住居のある職員とも連携して、災害等に対処できるよう想定し実施している。次回は見守り役として、地域の方にも参加してもらいたいと考えている。事業所は地域の要支援者の避難所となっており、缶詰等の備蓄や、停電に備えてカセットコンロ、石油ストーブが用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、その方に合った対応を心掛けプライバシーを損ねないように配慮している。研修会で学ぶ機会も設けている。	トイレへの誘導等は小声でそっと行い、排泄中はドアを閉めるようにしている。名前の呼び方なども、馴れ馴れしくならないよう、○○さん、と丁寧に呼び、不適切と思われる態度や言葉は、職員同士その場で注意して直すよう努めている。トイレのチェック表は利用者の目につかない場所に置き、個人情報ファイルは、カギのかかる場所にしまっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけでなく自ら意思表示できるよう声掛けしたり、選択肢を設けたり、表情を見たりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度声かけを行い本人のペース、状態に合わせて希望を聞きながら支援している。出来ない時は、その説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの服を選んで頂いたり、ご自分で髪をとかしてもらうなど身だしなみを整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクの時間や何気ない会話から希望を聞き、食事作りに反映したり、月1回はお取り寄せをしたり喜んで頂いている。野菜の皮むきや大根おろし、片付けを手伝って頂いている。	夕食は調理済みのものを取り寄せる日もあるが、食事は職員が手作りし、利用者の状態に合わせて、きざんだり柔らかくしたりの配慮をしている。行事で外出した際に外食を楽しんだり、寿司などを取り寄せたりすることもある。誕生会には職員がケーキを手作りしている。庭の畑で野菜と一緒に収穫し調理したり、おやつを一緒に作ったり、後片付けをしたりするなど、利用者もできる範囲で食事作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録に残し足りない部分は、補えるよう工夫している。病状によって糖分や塩分に気を付けて提供している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、口腔内の確認、仕上げの手伝い、見守りや「促し」の声掛け等、本人に合った支援を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えやタイミングに合わせ排泄を記録に残しパターンの把握に努め声掛け誘導や定時誘導を行なっている。夜間のみオムツの対応の方でもトイレの訴えがある時は、トイレ誘導を行ない自立に向けて支援している。	職員は排泄チェック表を付け、利用者の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を適宜行っている。現在、夜間のおむつは1人だけで、他の利用者はリハビリパンツとパッド使用となっている。認知症が進み、トイレで排泄できなくなっていた利用者が、入居後職員の適切な声掛けと誘導で、トイレでの排泄ができるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の記録、食事量、水分量のチェックを行い施設内ウォーキングや体操の促しを実施している。それでも困難な時は、家族様に相談し受診して頂き、内服の支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、臨機応変に対応し気持ち良く入浴して頂けるよう支援している。日々、入浴剤を入れたり、季節で菖蒲湯や柚子湯等にし入浴して頂いている。	入浴は週に3回、午前中に行っている。入浴を嫌がる人には、時間をおいて再度声掛けをするなどしている。入浴剤や、季節に合わせて柚子、菖蒲などを入れ、利用者に喜ばれている。利用者として支援する職員一人一人の入浴時間は、会話が弾む楽しいひとときとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は、本人に合わせ生活リズムが崩れないよう、昼夜逆転にならない程度に支援している。ベッドメイキング、布団ふ干しなど行い衛生面に気をつけ安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服薬の説明書を添付しており、職員全員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更がある場合は、口頭での申し送りや申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物干し畳み、モップ掛け、レク時の挨拶などその方が出来る事、得意とする事を無理がない程度に行なって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出行事の計画を立て、ドライブを兼ね皆で外出して楽しんで頂いている。外食もして頂けた。	天気の良い日は、近接する小学校へ散歩に行き、校庭での部活動を見学している。四季折々の、ドライブを兼ねた外出は利用者大変喜ばれている。家族や友人の協力を得て、お正月やお盆に自宅に外泊する利用者がいたり、誕生日に温泉宿に泊まる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意が得られる方は、少額のお金を所持している。散髪された時などご自分で支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	殆どが面会でお話しされることが多いが、携帯電話を持っていて自由にお話しされている方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって花を飾ったり、季節に合わせて入居者様と作った作品を飾り付けたりと快適に過ごして頂けるような工夫をしている。	建物は日当たりが良く、明るい色で統一された室内は清潔感を感じさせる。共用空間は天井が高く、開放感があり、中庭に植えられた植物は四季の移ろいを感じさせてくれる。ドア全面が開く広いトイレ、3方向から介助できる浴槽など、支援しやすいよう工夫された造りとなっている。 ボランティアと共に作った作品や、行事の際の利用者の笑顔の写真がリビングや廊下の壁を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテレビ、ソファを設置し、一人で過ごされたり、気の合う方とお話しされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等やテレビを持って来られたり、写真を飾るなどしている。配置もご家族と相談してご本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には壁紙と同系色のカーテンが掛けられ、低床ベッドと車いす対応の洗面台が備え付けられている。利用者はテレビ、加湿器などの家電や、自宅で使っていた筆筒、配偶者の写真などなじみのものを持ち込んでいる。利用者の安全に配慮し、各ユニットに1部屋、超低床ベッドが設置された居室も用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全に過ごせるよう配慮されている。一人一人に応じて安全に生活できるよう家具の配置や個人の歩行器や車椅子の置き場所にも配慮している。		